



スライド1



「お金の貸し借りを考える—お金のこまった、どうする?—」

<ねらい>

いつの間にか、お給料を使い果たしてしまった太郎さんの行動を、電子紙芝居で追いながら、お金を計画的に使うことの大切さを学びます。また、簡単に思いがちな金銭の貸し借りの問題点を考えます。さらに、お金に困ることがないようにするために気をつけることを学び、日常の生活で実践していけるよう、意識づけます。

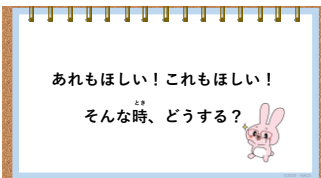
<所要時間の目安>

講義形式:30分程度 ワーク、ロールプレイを取り入れた場合:45分程度

講師シナリオ

指導のポイント/解説

スライド2



みなさんは、お小遣いやお給料をもらったら、何か買おうと思っているものがありますか?
お金があれば、何でも買える。欲しいもの、全部買いたいなど思っているかもしれませんね。
でも、ちょっと待って!
気をつけないといけなことがあります。
あれもほしい、これも欲しいと思った時、
そんな時にはどうすればいいか、みんなで考えてみましょう。

☞ 講義の中に、電子紙芝居を取り入れお金に関する困った問題について、受講者の考えを引き出しながら、解決方法や困らないための方法を、一緒に考えていきます。

☞ 初めに、お給料をもらった買おうと思っているものを発表してもらい、自分にも起こりうる話として、関心を持ってもらいます。

スライド3



太郎さんがお給料をもらってまもないある日のことです。
太郎さんは、靴やカバンを売っているおしゃれなお店にやってきました。

☞ メイン講師がナレーターを務めます。複数のスタッフがいる場合、寸劇風に演じると、楽しく学ぶことができます。



太郎 今月も、一生懸命働いたなあ。お給料をもらったから、自分にごほうびあげたい気分だよ。
あ、かっこいいスニーカーだなあ。
今はいているのより、ずっとかっこいいよ。
いくらかな? 5,000円だって!
思ったより、安いなあ。これ買おうと。

店員 ありがとうございます。

☞本教材『お金の使い方』前半「必要なもの・ほしいもの」では、自分の楽しみに使えるお金を 15,000 円と想定しています。お給料をもらって、気が大きくなっている太郎さんですが、受講者に、5,000 円のスニーカーが高いと思うか、安いと思うか尋ねてみるのもよいでしょう。

スライド4



帰ろうとした太郎さんが、ふとお店の中をみまわすと、かっこいいリュックがありました。

太郎 あれ、あのリュック、今買ったスニーカーに合わせてかっこいいだろうな。これも買おうと。
これ、いくらですか?

店員 お客様、さすがお目が高い。5,000円でございます。
人気の商品で、お客様が選んだ色は、これしか残っていないんです。

太郎 えっ! これしかないの? 買う買う、買っちゃう!

あらあら、太郎さん、あっという間に、10,000円も使ってしまった。

☞時間があれば、5,000円、1万円の金額のイメージを聞いてみるのも、受講者の金銭感覚を知る一つの方法となります。
本教材の『お金の使い方』前半「必要なもの・ほしいもの」で取り上げている「1万円では何が買えるかな」参照。

スライド5





それから、2週間後のことです。太郎さんが、暗い顔をして財布を見つめています。

太郎 あれ、どうしたんだろう。お札が一枚もない。小銭しか残っていない。何に使ったかなあ。

あ、スニーカー買った。リュックも買った。

それで、みんなに誘われて、新しいリュックを持って新しいスニーカーをはいて、カラオケやアニメ映画を見にいったんだ。

明日は、ずっと前から、花子さんたちと、「アニメランド」に行こうって、約束していたのに。

お金がない。どうしよう。

さて、太郎さんは、どうしてこんなことになったのでしょうか。

☞太郎さんのお財布から、お札が一枚もなくなった理由を、受講者から発表してもらおうと、ここまでの復習になります。

スライド6



では、太郎さんがどうして、「お金の困った」になったのか、一緒に考えてみましょう。

まず、スニーカーを買ったことが理由だと思う人？

リュックを買ったからだと思う人？

カラオケや映画に行ったからだと思う人？

「アニメランド」に行くお金を残しておかなかったからだと思う人？

そうなんです。ここに書いてあることは、みんな、太郎さんの「お金の困った」につながる理由なのです。

太郎さんは、欲しいものを買うため、行きたいところに行くために、次々とお金を使ってしまっていました。

花子さんや友達と、「アニメランド」に行くのは、だいぶ前から決まっていたというのに。

あれを買わなければよかった、カラオケを我慢すればよかった、と太郎さんは後悔しています。でも、もう遅いです。

太郎さんは、どうしたらいいのでしょうか。

☞受講者に、そうだと思うところで手をあげてもらいます。手をあげるのは、何回でもかまいません。

☞太郎さんがどうすればよいか、次のスライドに移る前に、自由に意見を発表してもらいます。ボードに書き出して、後のクイズの回答と比べてみます。



スライド7



さあ、ここに4つの方法が書いてあります。

あなたなら、どうしますか?

1. 友だちにお金を借りるという人?
2. 貯金を下ろす人?
3. 「アニメランド」に行くのを我慢する人?
4. だれかに相談する人?

みんなの意見は、いろいろでしたね。

一番多かったのは、○番でしたね。

では、太郎さんはどうしたでしょうか?

☞教室の意見で、一番多いものについて、受講者の感想を聞きます。

スライド8



翌日、待ち合わせの駅前でのことです。

太郎さんが、先に来ていた花子さんに話しかけました。

太郎 僕、今日の「アニメランド」、楽しみにしていたんだけど、お金を使いすぎて、お金がなくなっちゃったの。

花子さん、お金を貸してくれない?

貸してくれないなら、僕、ここから帰るよ。

花子 そんなこと、言わないでよ。一緒に行けないと、寂しいよ。いいよ、万ーのために少し余分にお金を持ってきたの。

はい、5,000円、きつと返してよ。

太郎 ありがとう。きつと返すよ。わーい、行けるようになって、よかった。

☞この太郎さんと花子さんのやり取りは、ロールプレイにすると効果的です。

①又は②の2つの方法があります。

①太郎さんと花子さんを演じてもらう
受講者を決め、セリフを読んでもらいます。スライド8のセリフの部分
を別紙に記載して使用します。

②太郎さんに頼まれた花子さんが、どんな返事をするか、太郎さんの「お金を貸してくれない?」のお願いに、一人ずつ自分で考えて答えてもらいます。



スライド10



事業所の職員さんが、二人に言いました。

職員 太郎さん、お金を借りたなら、返さないといけないよ。約束は守らないとね。今度、お給料をもらったから、必ず花子さんに返すのよ。

花子さん、お金は借りるのも貸すのも、そんなに簡単にしてはいけないのよ。

あなたたちは、1,000 円のお給料をもらうのに、どれだけパンを作らないといけないか知っているでしょう。5,000 円をもらうには、1週間働かないといけないのよ。

お給料があるから、毎日のご飯を食べたり、洋服を買ったり、毎月のケータイ代を払うことができるのよ。

お給料は、ちゃんと計画を立てて使おうね。欲しいものや楽しいことにお金を使うのもいいけれど、時には我慢をすることも必要よ。人にお金を借りたりしないで暮らせるように、頑張ろうね。

太郎 花子さん、ごめんね。もうお金を借りたりしないように、頑張るよ。来月、お給料をもらったから、真っ先に返すからね。

花子 わかったわ。頑張るよ。

二人は仲直りできたみたいで良かったですね。今度は、みなさんで、「お金の困った」にならないための方法を、考えてみましょう。

ここでは、工賃は、「就労継続支援B型事業所 時給200円」を想定しています。

☞本教材『お金の使い方』後半「お給料の使い道を考えよう」の復習になります。

お給料をもらったから、生活費（必ずいるお金）、お小遣い（楽しみのお金）、貯金の3つにお金を振り分けることを思い出してもらえると、理解が深まります。

スライド11





気がついたらお財布が空っぽだった、
お金を貸してあげたのに、なかなか返してくれなかった、
皆さんも、こんなことになったこと、あったかもしれませんね。
そんな時、どんなふうに解決しましたか?
そうならないために、皆さんだったら、どんなことに気をつけますか。

☞ 「困った経験」は、恥ずかしいので言いたくないという場合もありますが、グループワークにすると、意見が出やすくなります。
「気をつけること」は、人数によっては、一人ずつ発表してもらいます。

スライド12



皆さんからは、「 」、「 」、「 」などの意見があがりました。では、この約束を見てみましょう。

「お金の困った!」にならないために、大事なことは4つあります。

- 買う時に、欲しいのか、必要なのかよく考える
 - お小遣い帳をつける
 - お金の貸し借りをしない
 - 困ったときは大人に相談する
- これから、4つの約束について、一つずつ勉強しましょう。

☞ 出てきた意見を、4つの約束の内容に振り分けていきます。
「無駄遣いしない」などは、「ほしいのか、ひつようなのかよく考える」に入ります。
当てはまらない意見についても、自分で考えたことを評価します。

スライド13



あれも欲しい、あそこに行きたい、
欲しいものや行きたいところは、たくさんあります。
だからといって、次々とお金を使ってしまったら、どんなことになるか、もう知っていますね。
お金を使う時は、本当に必要なものか、
ただ欲しいだけなのか、よく考えましょう。
欲しいだけだったら、少し我慢をしてみませんか?
我慢をして、お金が貯まってから欲しいものを買うと、嬉しい気持ちは何倍にもなりますよ。



スライド14



みなさんは、お金を使ったら、お小遣い帳につけていますか？

家に帰ってきたら、お財布の中を確かめてみましょう。

レシートはもらっていますか？レシートは、「いつ、どこで、何を、いくらで買ったか」という買い物の記録です。

何かを買ったら、レシートを忘れずもらいましょう。

レシートを見ながら、お小遣い帳に、何にいくら使ったか書いていくと、無駄遣いに気づくこともあります。

書くのが面倒くさかったら、レシートをノートに貼るだけでもいいですよ。

そして、お財布に残っているお金も、記入しておきましょう。

☞レシートを使った、ワークも効果があります。

財布の中のレシートや、あらかじめ用意した一人数枚ずつのレシートを使い、小遣い帳のフォームに記入してもらいます。毎日、何にいくら使ったかを記録する習慣をつけます。毎日、お小遣い帳をつけることを宿題にしてもよいでしょう。

スライド 15



それから、とっても、大事なこと。

太郎さんと花子さんがけんかになったように、お金の貸し借りを簡単に考えると、友だち関係を悪くしたり友だちをなくしたりします。友だちとお金の貸し借りをするのは、やめましょう。

☞クレジットカードを保有している受講者がいる場合、《発展》に記載の内容をしっかりと伝えます。

《発展》

友達に借りるのがだめなら、自分のクレジットカードを使えばいいと思う人もいるかもしれません。

クレジットカードがあると、今お金を持っていなくても、欲しいものをどんどん買えるような気持ちになるかもしれません。

でも、カードで買い物したお金は、支払いの日には銀行の口座から引き落とされます。それまでは、お金を借りているということなのです。



スライド16



お金に困った、そんな時には、一人で悩まないで、信頼できる大人に相談しましょう。

太郎さんも、事業所の職員さんに相談してみればよかったですね。

それから、借りたお金を返すために、「お金、すぐ貸します」というようなところから、簡単にお金を借りたりしないこと。

もっと困ることが起きます。

「お金の困った」は、早めに誰かに相談することが大事ですよ。

スマートフォンなどで、簡単にお金を貸すという広告を見かけることがあります。「いますぐ」とか「〇日間無料で」、「身分証だけで」などと勧誘しています。少額のお金を借りたつもりだったのに、借りたお金の何倍も返さなければならなくなる場合があります。

お金がなくて困っているという相談をするのが恥ずかしくて、こういう業者から借りてトラブルになるケースもあります。

受講者が相談しやすい環境を作ると共に、トラブルになって困っているという相談があったら、消費者ホットライン188や警察に相談してください。

スライド17



☞ 4つの約束を、最後にもう一度読み上げます。

スライド18



☞ ナックちゃんの呼びかけに対して、4つの約束を思い出してもらう時間を持つと、効果的です。